

市内景気動向調査結果

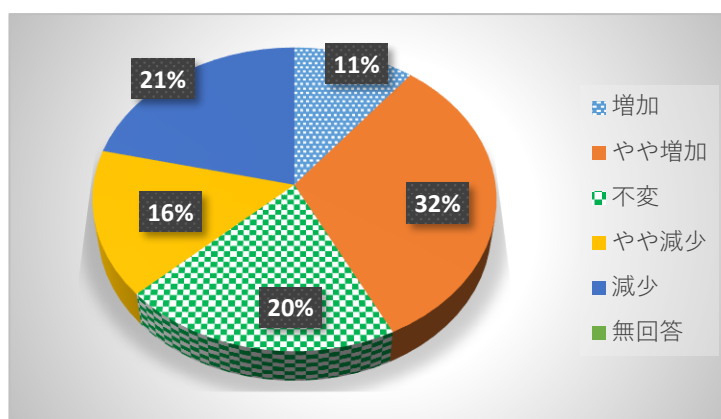
この調査は、第4四半期（令和5年1月から3月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
122	36	15	12	20	29	10

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業

1. 売上高はどう変化したか。

増加	13
やや増加	39
不変	25
やや減少	19
減少	26
無回答	
合計	122

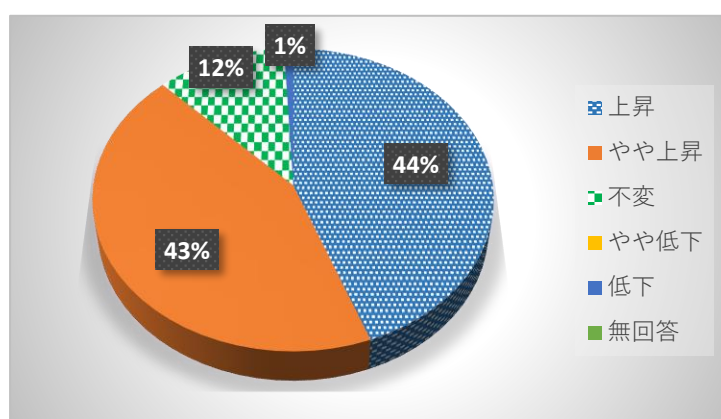


【コメント】

- 増加・やや増加が42.6%、不変が20.5%、やや減少・減少が36.9%であった。前年同期では、増加・やや増加が31.0%、不変が29.0%、やや減少・減少が40.0%であったので、二極化の傾向にある。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が58.3%、その他が50.0%、サービス業が44.8%、製造業と卸小売業が40.0%、建設業が36.5%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、卸小売業が50.0%、製造業が40.0%、建設業が41.7%、サービス業が31.0%、その他が30.0%、運輸業が16.7%であった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	54
やや上昇	53
不変	14
やや低下	
低下	1
無回答	
合計	122



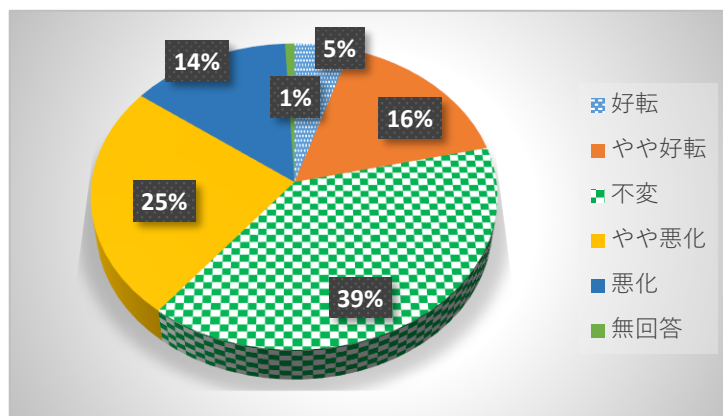
【コメント】

- 上昇・やや上昇が87.7%、不変が11.5%、やや低下・低下が0.8%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が74.0%、不変が23.0%、やや減少・減少が2.0%であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が100%、建設業が91.7%、卸小売業とその他が90.0%、運輸業が83.3%、サービス業が75.9%であった。
- 前年同期に引き続き、円安の影響、原材料、エネルギー価格の高騰がすべての業種で仕入単価を押し上げた。

- 売上の増加よりも仕入価格が上昇した企業の割合が多く、仕入価格上昇分を販売価格に転嫁できない企業は、ますます厳しい状況となる。

3. 採算について

好転	6
やや好転	20
不変	48
やや悪化	30
悪化	17
無回答	1
合計	122

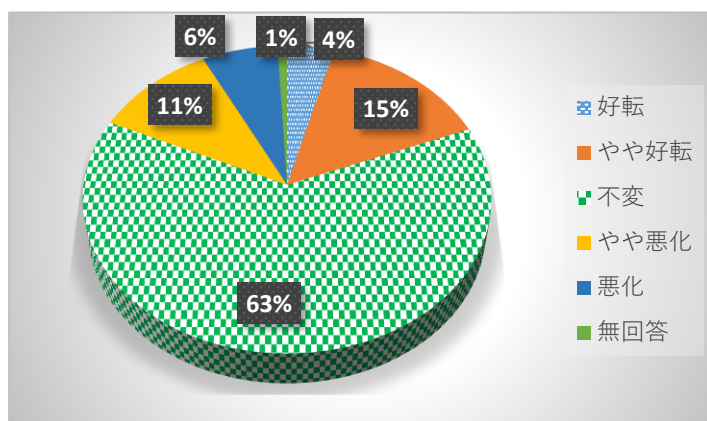


【コメント】

- 好転・やや好転が21.3%、不変が39.4%、やや悪化・悪化が38.5%であった。前年同期の好転・やや好転が19.0%、不変が34.0%、やや悪化・悪化が47.0%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が45.0%、サービス業が41.4%、製造業が40.0%、運輸業が33.3%、建設業が28.9%、その他が20.0%。
- 前年同期と同様の状況であるが、悪化の状況が多少改善された。

4. 資金繰りについて

好転	5
やや好転	18
不変	77
やや悪化	13
悪化	8
無回答	1
合計	122

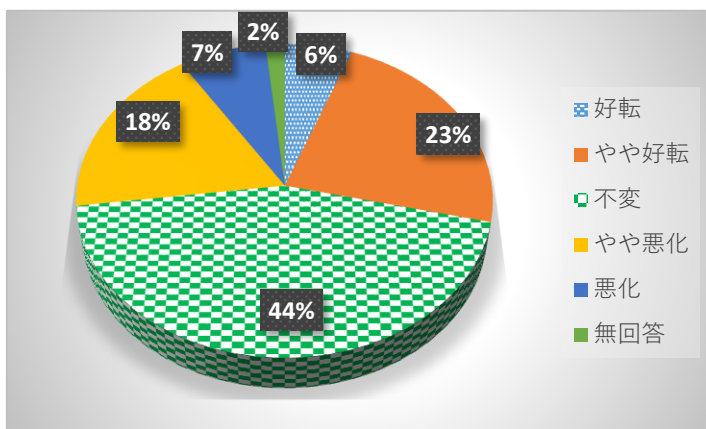


【コメント】

- 好転・やや好転は12.1%、不変が65.7%、やや悪化・悪化が22.2%であった。前年同期の好転・やや好転が23.1%、不変が36.5%、やや悪化・悪化が40.4%であった。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、運輸業と卸小売業が25.0%、サービス業が24.1%であった。

5. 業況について

好転	7
やや好転	28
不変	54
やや悪化	22
悪化	9
無回答	2
合計	122

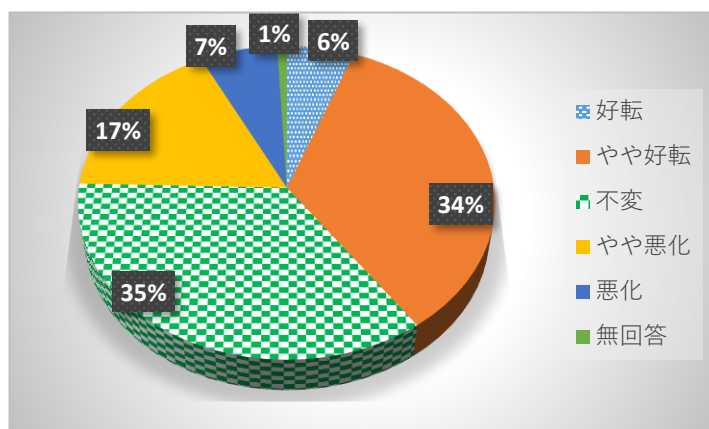


【コメント】

- 好転・やや好転は28.7%、不変が44.3%、やや悪化・悪化が25.4%で、前年同期は、好転・やや好転が17.0%、不変が42.0%、やや悪化・悪化が41.0%であった。全体としては好転の割合が増え、悪化の割合は減少した。
- 業況好転の割合が高い業種は、運輸業が41.7%、その他が40.0%、サービス業が31.0%、卸小売業が30.0%
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が40.0%、サービス業が34.5%であった。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	7
やや好転	42
不変	43
やや悪化	21
悪化	8
無回答	1
合計	122



【コメント】

- 好転・やや好転が40.2%、不変が35.2%、やや悪化・悪化が23.8%で、業種別の好転・やや好転は、その他が70.0%、建設業と運輸業が41.7%、サービス業が41.4%、製造業が33.3%であった。
- 卸小売業は、やや悪化・悪化が50.0%であった。
- 原材料、エネルギー価格の上昇による先行き不透明感はあるが、新型コロナの影響が少なくなったため、好転すると回答した事業所が多かった。ただし価格転嫁が難しい卸小売業が悪化と予想する割合が大きい状況。

■ 回答事業所からのコメント

【建設業】

- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している
- 全体の動きが止まっているような気がします。周りも余り受注がないように聞いています。また外注費は10%上昇
- 外注費が高騰しているが、当社の人工費が上がっていないので業績はあまり良くない

- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している
- コロナ感染拡大の収束に伴い、需要は高まっていますが、同時に資材等の値上げにより買い控えや購入平均価格の下落傾向が発生しています
- 資材単価が少し上昇している。燃料価格が上昇している。人工単価が少し上がり、その分をカバーしている。全体的にコロナで停滞していた状況を何とかしようとしているきらいがある
- 公共工事がボールパークの影響で下落し、業況の下振れに向かうと思われるが、民間等にて今後の事業を上振れに向けていきたいと考えています
- ボールパーク工事が終了したため売上が低下
- 雪解けが早く暖かい日が続いたことで工事着工が早くなりUPした。国の先進的窓リノベ事業の補助金制度で物件獲得に期待が持てる
- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している。4月からは少し先行きが明るくなる予定です
- 当社は1～3月までは、ほぼ活動していないため不変です。4月から仕事依頼があるため好転すると思います
- 昨年は大雪のため2ヵ月動けない状況にあり、売上はないに等しく、今年は雪解けが早く動きが出たため
- 長期間の仕事が多いため
- ボールパーク関係事業がほぼ終了したため、今後の市発注工事がどうなるか不安。今までボールパーク関係の仕事に集中していたため、今後は他の発注機関への営業を強めなければならない
- 前年度についてはボールパーク関連の工事と降雪量が多かったため収益が好調でした。今年度は全体の売上に対する原価率を見るとボールパーク関連工事取得以前と同様になっています
- 工事自体の受注が減っている
- 4月から受注工事が始まり、やや好転する見込みです

【製造業】

- ウィズコロナに向けた政策展開により経済活動の制限が緩和されていることで活性化が期待されるが、原材料の高騰、モノ不足（入手困難）、調達品の長納期化は今後しばらく続く見込み
- 鳥インフルエンザによる卵の供給不足
- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している
- 前年よりは受注状況の改善が見られ、今後もその傾向は継続すると思われる
- 中規模以下の事業所は仕事量が減少しており、厳しい状況になっている
- 生産量÷売上額の大きな動きはなく、変化がない中、光熱費関係の高騰、併せて原材料費の高騰により経費増加と厳しくなっている。医薬品製造のため国政施策により薬価（薬の価格）は年々下げられているため、売上額に影響する
- 売上はやや減少したものの製品在庫が増加したこと、経費を抑えることができたので損益は改善しました。今年度に入り在庫分の売上が計上されるため、Q1はやや好転を見込んでいますが、その後についてはコロナ禍後の状況によって大きく変動する可能性があり予想がつかない状況です
- 原材料の高騰、受注量の減少

【運輸業】

- 燃料費の高騰がダイレクトに影響する。人員確保に目処が立たず受注できない
- 2024年問題への対策として人件費増が見込まれるため
- インバウンドメインのバス会社で、コロナ時は休業、昨年12月からの再開により業績に反映した
- ガソリン価格が高騰しても運送料の値上げはできず。また引っ越しもコロナの影響か、昨年に比べ全くと言っていいほど依頼がなくひどい状態です
- コロナの収束、賃金の上昇で景気が良くなることを期待します
- 軽油高騰が続き、なかなか運賃の値上げに繋がらない
- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している

- 業務委託配達契約ですが、1月から3月は政府の全国旅行支援関係の配達が多かった。昨年比の売上額は横ばいでした。委託単価のアップには、契約先は消極的です
- 電気代や燃料の高騰

【卸小売業】

- 業種的に上半期は営業受注、下半期は売上回収という形態のため、4月から6月はどうしても売上は減少する。また決算が3月のため消費税を5月に払う（他の税金も）のも毎年厳しい。良い点としては競争のない商材のため価格転嫁の心配はない
- 仕入商品の値上げ、販売商品の値上げによるお客様の買い控え増
- 販売価格を上げると売上が下がる。販売店の皆様も大変です
- コロナが収まり通常生活になり、ボールパーク開業で観光客が増え、グッズ売上やイベント開催が増えています。一方除菌消臭水の売上が下がりマスク生活の終了とともにドラッグストアでの変化が生じています。今後はイベント開催によるゲームの売上増加とグッズの増加が期待されます
- お客様も思いきってお金を使えない感じ
- 売上回収傾向にあるものの、水光熱その他、管理費高騰の影響もあり好転とはいえない
- 売上高の増加は仕入価格の上昇分を売価に転嫁したことによる
- 仕入単価の高騰、食料品全体の売価上昇のため、お客様の買い控え等で業績悪化
- 商品の価格改定で業績が持っている状況
- 3月に新しく布の企画を展開。WEB広告をして売上増となった
- テレビの取り上げられて売上は伸びたが、価格転嫁していないため利益が上がっていない。一時的なテレビの影響なので、今後の状況は落ち着き昨年と同じ感じになるであろうと考えています

【サービス業】

- 原材料が高騰しているが、その分を価格転嫁できないため業績が悪化している。さらに最低賃金上昇による。またエネルギー代（特に電気代）の高騰により、消費者の節約意識が高まりサービス業への出費を控えているように見える
- 人の流れは回復しているので、売上増は期待できるが、経費上昇に伴って利益幅は減少の可能性大である
- ゴルフ人気が高い
- 売上：入居申し込み相談件数の低下。仕入：燃料費の高騰、人件費関係。業況：介護保険サービス料低下、新規事業開始の遅れ
- コロナ等の落ち着きにより経済活動が回復基調にあるように感じている
- 受注件数の低下
- 仕入原価の高騰
- 各月の売上変動幅は少なく、値上げ交渉等を含めた一定の売上確保ができたことでの収支状況であった。4月以降については、経費割合が大きい燃料・光熱費の動向を把握しつつ、資材関係の値上げも継続されていることから、各顧客先への値上げ交渉を続けるとともに、生産効率向上、経費面の抑制を続け、予算との精査をしっかりと進めなければ、収支状況が悪化する可能性がある
- 原材料費、光熱費、燃料費が高騰しており大きく影響を受けた。今後の価格見直し、コロナの動向を踏まえ業況は好転すると思われる
- 事業所立ち上げ3年目となり徐々に認知されてきている
- 保留になっていた工事や改修工事等の現場も動き出し、売上は前年以上の増加を見込めるが、それに比例して仕入も増加し、仕入単価や燃料費の高騰等を考えると変化はあまり見られないかもしれません

【その他】

- 原材料、光熱費が高騰しているため厳しい。コロナは収まりつつあり、お客様は増えている
- 営業システム、仕組み等の改善と維持
- 原材料の高騰で3月に一部商品を値上げしたが、まだ足りていない。人手不足のため販売拡大ができない

- 新形コロナウイルス対策の緩和により、スクール生の増加を期待している。企業の業績が好転するも、保険代理店の増収に繋がるので期待している
- 仕入れ値が高騰しているが、商品の3分の2は値上げ済み。暖かくなれば客足は例年どおり増え、コロナ規制も殆どなくなるので今後は好転すると考えている。球場の絡みの好転は期待もしていない。店舗前の道路が渋滞して、お客が入りづらく困っている
- コロナの収束、賃金の上昇で景気が良くなることを期待します
- 原材料の高騰などネガティブな点はあるが、ボールパークの開業に伴い北広島に足を運ぶきっかけとなっている
- コロナウイルスの世の中の考え方が変わり、人の動きが出てきて消費意欲が上がっていると思う
- 入居者の減少
- 4月から原材料高騰分（最小限）の価格転嫁を実施。客数に変化は見られないことから業況は不変と推察。現在は原材料高騰はもとより、一部（乳製品）に供給量低下、供給停止物品が出始めており対応を進めている